子どもが主体で企画運営する

子ども食堂「ききょう」

「ききょう」と命名。桔梗の花言葉に「友の帰りを待つ」の意味があることと、故郷に帰る「帰郷」の意味を掛け合わせたとのこと。

特定非営利活動法人しいのみ

あったかふれあいセンターにしきの広場

運営の目的

- 子どもたちが大人になったとき、何か少しでもお料理の作り方を学んでおくことで体に良い食生活が送られるように。
- 地域の中で、子どもと子ども、大人と子ども、高齢者と子どもが関わり合うことで支え合いの意識が生まれる。地域の中で育ったという地域愛を育む。
- 企画、運営を任せることで、リーダー育成や次世代育成につなげる。
- 孤食になりがちな家庭への支援。

子ども食堂「ききょう」開催に向けてのステップ

顔合わせ、
子ども食堂
運営について

メニュー、
材料を決める
食材確保の為の
チラシ作り

反省、アンケート
集計結果
ニーズの把握

ステップ1
企画会議

大方高校3年生
（説明、共有）

ステップ2
具体的起案

ステップ3
食材の調達

食材の確保、
アポイント。
高校生の学校行事に
合わせて細かく設定

ステップ4
当日運営

調理、参加者との関わ
り、アンケート実施

ステップ5
振り返り

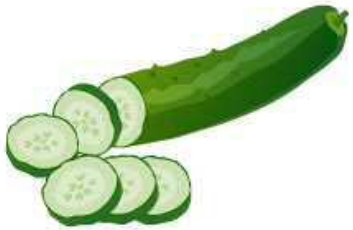
（顔合わせ、企画の説明など）

☆高校生と子ども食堂の立ち上げ、運営企画。
☆調理指導してくれるボランティアさんも、高校生の話をしっかりと聴いてくれ、メニューを決める。

3年後
後輩達も

☆子ども食堂とコラボして「地域で子育てを支えたい！」と活動に来てくれました。子育て世代のお母さん達にアンケートをとり自分達に出来る事を探していきます。

食材の確保　（地域とつながる）



地域に出向いて、料理に使う食材の調達に…キュウリ農家さんではキュウリの収穫作業からさせていただきました。
この日は、97歳の男性が作った玉ねぎもいただきました。

☆子ども達の参加がきっかけとなり、保護者世代ともつながる事ができている。若い世代がつながることにより、地域で見守り支え合う力ができています。

☆奥様が夜勤のお仕事なので、子どもを連れて食事に来るイクメンパパ達。

☆自分の子どもも、よその子も同じテーブルを囲んで　楽しい会話の中、完食できました。食べた後は、自分で下膳。地域で採れたお野菜も販売しています。

☆中学生は、ボランティアに入るまでに宿題を済ませています。わからない所は高校生が教えてくれています。

☆子ども食堂が始まる前に、包括支援センターと協働で小学生を中心に認知症啓発のカルタとりをしました。カルタには認知症啓発に関することが書かれています。読み手は区長さんと駐在所の巡査さんにして頂きました。小さい頃から認知症の事を学習し理解することはとても大切なことだと思います。カルタとりの後は、ボランティアに入ってくれました。

小学4年生の時からボランティアに参加。中学生になった今も頑張ってくれています！子ども達の成長を感じます。

高校生が小学生に教える場面も…

調理ボランティアさんにおそわりながら頑張っています。

☆頑張った後には賄い飯？今日の反省をしながら美味しくいただきました。自分達で考えたメニューは格別でした。

☆長引くコロナ禍で、どうすれば開催できるのか考え、検温、消毒をしてもらい、電話とメールで予約時間を決めて、受け取るという形でテイクアウトのみでの開催。この時は賄い飯もテイクアウトにしました。

今後に向けて　・・・

＊今後も地域のつながりや支え合いを意識できる仕組みを作っていく事、地域に情報発信し、より多くの方に来ていただき、交流を深める(課題発見の機会を作る)

＊継続することにより、子どもの様子に変化があれば気づくことができ、孤食になりがちな家庭の子どもについては保護者間で共有しながら利用につなげる。(互いに見守る意識づくり)

＊中学生、高校生と協力して運営してもらう。（縦のつながりづくり）